

厳しい環境は続いていますが、収益構造が改

下期黒字化達成(連結営業利益3億9千4百万円)、売上高も月を追うごとに回復傾向にあります。



代表取締役会長兼社長

船木俊之

Q1

2009年度を終えて、経営環境およびIDECグループの業績をどのように認識・評価していますか？

A1

急激な環境変化に対応すべく、各種施策を実施しましたが、残念ながら当期は営業損失を計上することとなりました。しかしながら、2010年度をスタートとする新中期経営計画※の達成に向け、一定の成果は得られたと考えています。

米国発の金融システムの混乱が、100年に一度といわれる経済危機に波及した2008年度下期に引き続き、2009年度は非常に厳しい環境下での幕開けとなりました。

そのような中、IDECグループでは当期を「IDEC変革」の起点の年と位置づけ、①緊急対策を含めたあらゆるコストの削減、②ゆるぎない経営基盤の構築を目指した事業構造改革への着手、③主力スイッチ事業のさらなる強化、④LED照明事業への注力という4点を中心に、グループ一丸となって取り組んできました。

事業構造改革においては、国内グループ会社2社を清算、経営資源の集約を図るなど、各種の合理化に取り組み、引

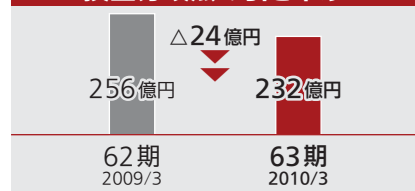
き続きグループ全体最適を実現する生産・販売体制の再構築に向けて検討を進めています。

また、事業面では、主力制御用操作スイッチ事業の強化を目的として、従来の開発・生産プロセスの枠を超えた抜本的な改革に着手し、戦略製品の開発に取り組んできました。さらにLED照明事業においては、B to B“オーダーLED照明”ビジネスを立ちあげ、同事業を新たな柱とするための大きな第一歩を踏み出すことができたと考えています。

このような取り組みの結果、IDECグループの当期の売上高は、国内売上高が、142億7千2百万円(前期比21.8%減)、海外売上高は円高による円換算での売上高が減少した影響もあり、81億7千万円(前期比16.2%減)となりました。これにより、連結全体の売上高は、224億4千3百万円(前期比19.9%減)となりました。

利益面では、緊急対策を実施し、あらゆる費用の削減に取り組み、前期に比べて損益分岐点を約24億円引き下げまし

損益分岐点の引き下げ



善しています。

た。しかしながら、大幅な減収による利益の減少を補うには至らず、当期は営業損失4億7千8百万円となりました。

以上のように、残念ながら通期では営業赤字となりましたが、2010年度をスタートとする新中期経営計画の達成に向けた各種の布石を打ち、一定の成果は得られたと考えています。

Q2

売上高・受注高はどのように推移しましたか？また、2011年3月期の見通しについて教えてください。

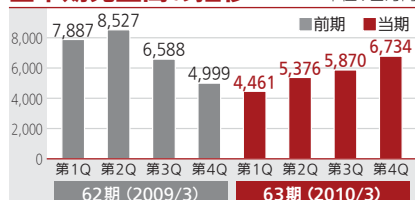
A2

期を追うごとに売上高も回復傾向にあり、2009年7月以降、受注先行の状況で推移しています。そのような状況も踏まえ、2011年3月期は、売上高280億円を予想しています。

前期の期後半には、当社が所属する業界団体である(社)日本電気制御機器工業会 (NECA) の出荷額も、半期で

四半期売上高の推移

単位: 百万円



30.4%減と、かつてない水準の落ち込みを示しました。IDECグループの売上高も、2009年3月期第3四半期以降急激に落ち込みましたが、当第1四半期の水準を底として、以降着実な回復基調にあります。

さらに、受注高についても、前第4四半期の約45億円に対し、当第4四半期には約76億円の水準まで回復しており、特に2009年7月以降は、売上高を受注高が上回る、受注先行の状況で推移しています。

この回復基調は、2011年3月期においても引き続き継続すると考えており、IDECグループでは、当該事業環境をベースとして、新中期経営計画に基づく各種重点施策への取り組みを推進していきます。これにより、2011年3月期においては、売上高280億円(前期比124.8%)、営業利益17億円、当期純利益8億円を予想しています。

※新中期経営計画については次ページで紹介しています。

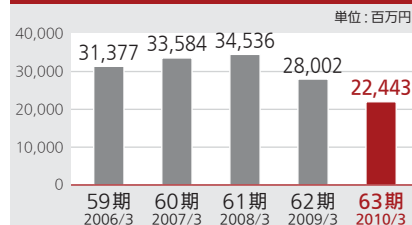
2010年度連結業績予想

売上高 **28,000** 百万円

営業利益 **1,700** 百万円

当期純利益 **800** 百万円

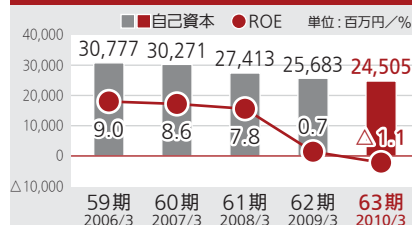
売上高 **22,443** 百万円



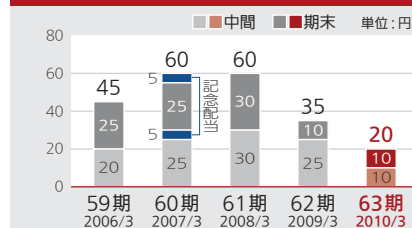
営業利益(△は損失) **△478** 百万円



自己資本 **24,505** 百万円



1株当たりの配当金 **10** 円



スイッチ事業を中心とした既存事業のさらなるゆるぎない経営基盤の構築を目指します。

Q3

2011年3月期からスタートする新中期経営計画の概要について教えてください。

A3

①スイッチ事業を中心とした既存事業の徹底強化、②販売重点エリアである中国での事業拡大、③社会的ニーズに対応した環境関連ビジネスの推進の3つのテーマに取り組み、着実な成長のステージを実現していきます。

IDECグループでは、2011年3月期より、長期ビジョンに基づいた新中期経営計画に取り組んでいきます。

今回の中期経営計画では、「スイッチ事業を中心とした既存事業の強化と新規事業開拓により、着実な成長のステージへ」という方針のもと、下記の3点の目標達成に向けた取り組みを推進していきます。

①スイッチ事業を中心とした既存事業の徹底強化

当社グループのスイッチ事業は、幅広いラインナップと高い品質をお客さまに評価いただき、国内でトップシェアを誇っています。また、売上規模や収益性の

高さからも、当社グループの重要な基盤となっています。

したがって、このスイッチ分野において、長期的にはグローバル市場でNO.1を目指すことを目標に、まずはこの3年間において、他社の追随を許さない確固たる国内シェアの獲得を目指し、さらなる収益基盤の強化を図っていきます。



2009年度開発戦略製品
非常停止用押ボタンスイッチX6シリーズ

②販売重点エリアである中国での事業拡大

さらに、成長著しい中国市場においては、現在の沿岸部を中心とした販売体制を内陸部へ拡大していくと同時に、引き続き蘇州工場を中心とした、現地生産・現地販売の体制整備を進めていきます。

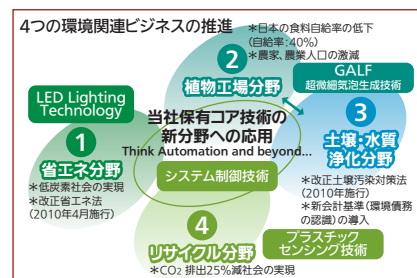


アジア市場向けスイッチ YWシリーズ

また、アジア市場向け製品であるYWシリーズに加え、中国を中心とするアジア市場にフォーカスした中核製品の市場投入を加速させ、販売の拡大に注力していきます。

③社会的ニーズに対応した環境関連ビジネスの推進

最後に、当社グループのコア技術であるシステム制御技術を活用し、LED照明事業をはじめとする省エネ分野、また微細気泡生成技術(GALF)を活用した土壌・水質浄化分野等の環境関連ビジネスの拡大に注力していきます。



以上の重点施策の実施により、中期計画最終年度(2013年3月期)において、売上高350億円、営業利益率15%以上の水準を目指していきます。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2010年5月

る強化により、

中期経営計画方針 [2011年3月期～2013年3月期] 概要

**中期
最終年度**
(2013年3月期)
ターゲット

売上高
350億円

営業利益率
15%以上

売上高

350億円(2009年度比55.9%増)を
目指します。

営業利益

構造改革を含めた収益体質の強化に
より、営業利益率15%以上を目指します。

スイッチ事業のシェア拡大

長期的にはグローバルでスイッチNO.1を目指すことを目標に、新中期経営計画では、まず国内シェアのさらなる拡大を目指します。そのために、小形スイッチの製品バリエーションの拡大、またその他主力製品群においては、部品共通化等を図り、収益性のさらなる向上に取り組みます。



非常停止用押ボタンスイッチ X6シリーズ

**さらなるバリエーション
強化によるシェアアップ**

**部品の共通化、コスト
削減による収益性の向上**

**開発から生産まで一気通貫
製品化プロセスを再構築**

販売重点エリア、中国での事業拡大

販売体制の強化によるエリアカバーの拡大を進めるとともに、現地生産・現地販売体制による、マーケットニーズに即した製品ラインナップの拡充を図ります。



アジア市場向けスイッチ YWシリーズ

**販売における
エリアカバー拡大**

**中国マーケット向け
製品ラインナップの拡充**

社会的ニーズに対応した環境関連ビジネスの推進

システム制御技術を活用したLED照明事業等の省エネ分野、また、微細気泡生成技術(GALF)を活用した土壌・水質浄化分野等の環境関連ビジネスの拡大に取り組みます。LED照明事業においては特に、工場等の産業分野の拡大に注力していきます。



天井用LEDライン照明

LED照明事業の拡大

**コア技術を活用した
土壌・水質浄化への取り組み**